

会 議 録

1 会議名

令和3年度第6回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）協議

自主的審議事項について（非公開）

上越市過疎地域持続的発展計画（案）について（公開）

（2）その他（公開）

次回地域協議会の日程について

3 開催日時

令和3年8月11日（水）午後6時30分から午後7時45分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

個人に対する事項を審議するため

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委 員：荒川清尊、高橋京子、高橋達也、竹内靖彦、松原功、宮川昇藏、
村越勝彦、陸川昇一、陸川陽一
- ・自治地域振興課：田中秀明自治・地域振興課長、東條綾子副課長、岡村典明係長
- ・事 務 局：名倉浩中郷区総合事務所長、内藤香織次長（総務・地域振興グループ長兼務）、宮尾広幸市民生活・福祉グループ長、教育・文化グループ長、総務・地域振興グループ・内田明浩班長、田村結花主事

〔 以下、総務・地域振興グループは総務G、市民生活・福祉グループは
市民G、教育・文化グループは教育G、グループ長はG長と表記 〕

8 発言の内容（要旨）

【内田班長】

- ・会議の開会を宣言

【竹内（靖）会長】

- ・挨拶

【内田班長】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内（靖）会長】

- ・会議録確認：「松原功」委員と「宮川昇藏」委員に依頼。
- ・協議事項(1)の自主的審議事項について、先回の地域協議会で講演会のテーマがアンケート結果により決定した。今回は、そのテーマにより講師の選定を行う。4班により人選をさせていただいたので説明を求める。なお、今回の案件は協議の際に個人名が出てくるので非公開とする。

・・・協議事項（1）の自主的審議事項については非公開・・・

【竹内（靖）会長】

続いて協議事項（2）の「上越市過疎地域持続的発展計画（案）」についての諮問事項である。本日は、自治・地域振興課より田中課長、東條副課長、岡村係長が出席していただいている。諮問内容について説明を求める。

【田中課長】

資料No.2に基づき説明。

【竹内（靖）会長】

今ほど、自治・地域振興課、田中課長からご説明をいただいた。

事前に資料をいただいていたが、かなり膨大な資料で、理解されるのに少し時間がかかったと思われるが、質問・意見を求める。如何か。

【高橋委員】

今回の諮問については、いつまでに答申をすればいいのか。具体的に地域協議会の中で審議するような時間があるかどうかを含めて、いつ位を目途したらいいのか。資料を見させていただいたが、私自身はあまり理解できない。特に17ページには基本方針があるが、具体的な取組が見えてこないので何とも答えようがない。何を質問したらいいか自体がわからない。読み進んでいくと、最後は「政策を推進する」とか「取り組んでいく」とかそういう内容で終わっている。中郷区において具体的に何をやるのか、それは、

総合事務所を中心に具体的に地域協議会と協議しながらやっていくのか、20 ページ辺りを見ると「支援に取り組む」というところがあったり、「取組を行っていく必要がある」などで終わっていて具体的に中郷区で進めていくものが分からない。22 ページ以降は具体的な内容が書かれていると説明されたが、一つ一つの項目を見ると「活性化を図る」「振興を図る」「活力向上を図る」と書かれており、具体的な内容が全然わからないので、非常に悩ましかった。具体的に「ハード事業」「ソフト事業」を行うための予算がどの位あって、どのように行うのか全然見えてこなかったもので、意見を求めると言われても、なかなかまとめようがないなと思っている。

ひととおりは目を通してはいるが、全部が全部、頭に入ってるわけじゃないが、それは今後、お互い協議しながら進めていくのか、この辺もちょっと見えないなという感じである。教育現場においても、先ほど統廃合の関係で話があり、新築にあたり、国の補助制度を使えると言われてもわからない。高校生は卒業後、進学し区及び市を出て行ってそのまま帰ってこない。人口は増える訳ないと思っている。それは就職先がないためで、具体的に活発な誘致などの計画もあるのかないのかも見えてこないで、諮問に答える意見として言いようがないと感じている。私自身は、これからの若い子供たちがここに住んでもらえるような環境というのは、市全体として考えていかないといけないのだろうと思っている。そういうことをメインに計画しないと5年経ってもこういう計画を考えただけで終わってしまう。また、次の5年があるのだろうけど、それも見えてこない。6次総合計画を参照と言われても、それとこれとの結び付きもちょっと分からないという面も多々あった。

【竹内（靖）会長】

諮問内容については、9月の地域協議会の時にも話し合いをさせていただきたいなと思っている。私も事前に何点か質問をさせていただいた案件もあるが、高橋委員が言われているこの資料の文言一つ一つ拾って読むとなかなか終着点っていうかどこを目指しているのかが、多分わかりづらいのかと思う。

私は、興味のあるところしか目を通してないが、これからどうするかは、住民の生活に及ぼす影響について具体的に地域協議会の中で挙げて、そこをこの過疎計画に載せて、言い方は悪いが、逆に国のお金が少し還元される部分もあるので、その辺をうまく利用するような事を地域協議会でも話し合いをしていけたらいいと思っている。

ただ、事務局の方にはお願いしたいのは、いろんな地区、様々な生活条件、環境、人口か

ら財源、全てにおいて地域でいろんな誤差というか違いがあると思う。今回の計画を全体的な市の発展計画としていくのはいいと思うが、中郷区はやはり、自分たちの生活に本当に必要なものをこれから改善していかなければならないと、現場にいる我々の方がよく理解しているし、日々感じているので、そこら辺の意見を今回制定された発展計画の中でうまく利用できるようなコミュニケーションの取り方は必要になってくるのかなと思っている。

それで、事前に質問した内容にも関連するが、全部は言わないが交通施設の整備として中郷区の消パイ路線が上越市の中でも非常に多いが、財源がなくて消パイの更新は年間1件か2件くらいとなっており、メインストリートも水の出が悪く非常に困っている状況にある。そういうことについても、過疎地域の高齢者世帯にとっては非常に大きな悩みになってしまう。その辺も頭に入れていただきたい。あと、市で行っているふれあいランチサービス事業について、今まで社会福祉協議会が行っていたができなくなり、業者に委託しているが、実際、安否確認ができているのか、疑問となっている。

住民の地域団体とか、地域の力を有効的に使って行っていくことも計画を載せていかないといけないと思っている。

ただ、そのためにはやはり地域の団体が動く、地域の人が動く活動には補助をしていかないと地域が生きていけないと思っている。その辺を全体的に見た計画にさせていただきたいのと、あとどうしても去年あたりからコロナ禍となっているが、この計画は令和3年度からであるが、やはりコロナ禍になる前と今というのは、今回の計画に影響があるのか聞かせていただきたい。

高橋委員の言われる先がちょっと見づらいというのは、どうしてもしょうがないのかなというような感じもするが、その辺も含めて、簡単にご回答いただきたい。

【田中課長】

高橋委員の言われるとおりの個別の区で行う内容が分かりにくいとご指摘については、そのように感じていると受け止めたいと思っている。

この計画は、区域、区ごとの単位というよりは過疎地域全体の発展ということで、策定しており、基本方針一つを取ってもどこの過疎地域にも当てはまるようなカテゴリーになっている。対策だとか計画に載せた事業というのは過疎地域にまつわるハード事業、それと全部ではないが、主だったソフト事業を列挙して網羅的に作ってある。

それで、お金の話で大変恐縮だが、この計画を策定することで、確保できる過疎債だと

か、そういう制度を最大限有効に活用したいということもあり、あまり細々書くと、記載されていない事業が出てくる心配もあったため、とにかく幅広になるように記載をして、漏れ落ちができるだけ無いようにという考えで作ったものである。もとより市の総合計画も今は地区別の計画は記載されていない。

産業とか福祉とか政策的な分野ごとに市の組織もできているので、政策ごとに市内全体のバランスを見ながら、或いは各地域の状況見ながら事業を組み立てている。その考え方からして過疎計画については地区別というよりは、過疎地域全体の総合的な計画ということで作成したので、その点をご理解いただきたい。

あと、事業については、なるべく漏れの無いようにいろいろ記載したが、実際に事業となると予算を伴うものであれば予算編成の作業が秋から毎年始まる。その前段には、総合事務所と日頃から意思疎通が図られていれば地域課題というものが吸い上げられて、それが予算として作られていくものと私ども考えている。やはり総合事務所とそういうやりとりが行われていることが大切だと思っている。

最終的に市全体のバランスを見て、事業の取捨選択というのはどうしても出てくるが、その際にも、やはりその区の振興のために必要だと思う事業をまず考えて、この計画となったときにその財源として例えば過疎債を使うことができる財政上の措置があるということである。過疎債ありきで事業を考えるのではなくて、区にとって必要な事業かということは総合事務所はもちろん木田にある課も同じように考えて予算を作っている。

毎年の予算編成の中で、その区における具体的なものは区で作るということになっている。

例えば消パイであるが、中郷区は今回初めて対象地域になるということで、ハード整備事業がどこまで対象になるのかというのは、県・国等と協議していかないと見えないが、基本的には日常の修繕ではなく、大規模な抜本的な改修もしくは新設であれば対象になる。

ソフト事業は今ここにいろいろ記載してあるが、全部が全部過疎債を使えるものではなく一定の要件がある。各地域の振興に、何か寄与するような主な事業を今列挙してあるのでご理解をいただきたい。

コロナの影響については、国からの通知の中には、今こういうコロナの状況にあって、例えば働き方改革と言われるような、都会に住む人が都会じゃない場所で、暮らしながら仕事するとか、住む場所は地方にあっても、インターネットなどで仕事をするとか

ていうところは国の方も認識をしている。過疎計画については、計画をした事業の中に統括事業として20の対策がある。例えばサテライトオフィスを設置したいという方がいればそれに対する補助事業とか、細かな事業は沢山ある。この資料だけではそこまで具体的に書いてない項目も確かにあるかと思う。いずれにしても具体的な取組については各担当課の方で、市民のニーズなども十分出来る限り踏まえて予算を結びつけていくことやっているんで、そういうふうに動いていただければと思っている。

【高橋委員】

今年度に入って地域協議会は今審議している自主的審議事項を終えて、会長にもお願いしたが、次の自主的審議事項のテーマを一つ一つ中郷区としてあげて、協議していかないといけないと話をしたことがある。中郷区は人口減少問題や克雪に対する対応、それからいろんな分野もあるだろうし、ソフト面もあると思う。次の自主的審議事項のテーマを設定していく都合もあるので今回話をさせていただいた。今回の計画の中にこれだけあると全部なんて出来ないと思うので、中郷区の必要とするものを一つ一つ絞りだして、優先順位をつけて行かないといけないと感じている。

【名倉所長】

今言われたとおりであるが、中郷区は今回過疎地域に入ったが、それに限らず地域の課題として、必要な事業については、毎年度予算計上をしていく。地域協議会からの要望や、また地域協議会以外でも、地元町内からたくさん要望がくるので、これも踏まえて重要なものについては、毎年要望はしていく。その要望した中で、今回、過疎地域に入ったということで、この財源が使えるようなことがあれば、使っていくというような形になると思う。

【竹内（靖）会長】

今回の計画を見ると行政も大変苦勞しているなど感じるところもある。高橋委員が言われたとおり、今でも中郷区の場合はいろんな地域の声を拾いながら、ハード事業ソフト事を行っており、市の中でも比較的先進的に取り組んでいるという事例もある。その辺はやはり総合事務所の力添えがあってからこそだが、これからも継続していきたい。我々委員も過疎地域の発展計画を常に頭に置いていろんな事業について少し一步を踏み込んで話していければいいなと思っている。それと、高橋委員の言われた自主的審議事項については、これから何を取り上げるかは今スタートラインに立っているんで、その上でこの発展計画に基づいて、本当に中郷区が優先的にやらなければならないことをし

っかり挙げて、総合事務所や木田の方にも相談し、我々の声を届けていきたいと思っているので、ご指導いただければと思っている。今回の発展計画については、特に異論はないが、皆さんはいかがか。

【陸川（昇）委員】

この計画に関しては全然問題ないと思うが、これをいかに活用させるかということである。

個人的には、人口を増やしたいというのがまず一つある。今の状態だと、中郷から上越市内への転出者がいるので人口が減っている。他には、結婚する人が少なく、出産率が全然上がらないのが一番だと思うが、そういうところを強化しながら、都会からの移住者確保を計画するとか、あとは田畑が結構中郷区にもあるのでそういうのを上手く活用できるような計画も立ててもらえれば一番いいと思う。その他には進学等で市外へ出ていくのがほとんどなので、上越市に地域の企業に関係する専門学校や行ってみたいと思うような専門学校を誘致するとかも今後考えたほうが良いと思う。

【竹内（靖）会長】

まさに地域との協働というか、これをすべて行政にやってくれってということじゃなくて、我々も地域に住む人間として、こういったものが必要だと、一緒にやっ払いこうとする陸川（昇）委員の前向きな意見なので、その辺もまた頭に入れていただきたいと思う。

今の専門学校の話とちょっと違うが、私も自分で商売をやっていて、地元の方とお話すると、「上越に就職先がない」とか「いい勤め先がない」とか言われるこの言葉が一番気になっている。地元で頑張っている業者は、みんな人材不足で困っている。だから、そこを市にどうにかしてくれってことではないが、若い人をこれから育てていくに当たって、やっぱり地元での商売を行っている商工関係の方々をまず大事にするような仕組みづくり、商工会の統合とか合併の話が出ているが、そういったところも県任せでなく過疎だからこそなおさら市がもっとバックアップすべき案件だと思うので、そういったところも話をしながらやっていただければと思っている。今回の諮問事項について、高橋副会長はどうか。

【高橋副会長】

問題はない。これは国から示されたものに上越市としての対応を当てはめて、形を作ったということだろうと解釈しましたので、これからこの中身に対して、温度を与えていくのは、我々のような地域協議会だったり行政だったりってというようなことなのだろう

うと思った。

私事でも恐縮だが、横浜から3人移住をさせた。3人のうち1人は子どもだが、感想を聞くと、「上越市に来てみたけど、なんだかあったかくない」というような感想であった。具体的に冷たくされたとかじゃないが、なんとなく、移住、移住って言っている割には優遇されるわけじゃないし、移住したが何かちょっと肩透かしをされた部分があるなどというような感想を持っているようである。なので、この計画の中身を、きちんとした熱のあるものにしていくのは、やはり住民からの要望について一緒に意見を闘わせながらやらなきゃいけないだろうし、困っていることとか、これをしたんだけどというようなことについては総合事務所だけでなく、担当部署の方からも真摯にお答えいただければありがたいなど今回の計画書を読みながら思った。

【宮川委員】

資料だが、新潟県地域持続発展計画が令和元年に出ているのでそんなのも参照して計画してほしい。

【竹内（靖）会長】

皆さん非常に前向きに中郷区地域協議会として考えていただいているので、問題なければこれを適当とさせていただきたいがどうか。ただし、皆さんそれぞれ地域代表の委員としての立場もあり、自分たちの個人的な立場もあり、地域の中で日々感じていることを、その結果があるないにかかわらず協議していく。そんな形で皆さんと一緒にまた新しい上越市の未来を作っていくということをお約束していただくということで、この発展計画については、適当とさせていただきたいと思うがよろしいか。

・・・全員承諾・・・

我々もこの計画について勉強させていただいて、また機会があったら地域協議会にお出でいただき、意見交換させていただければと思う。

【田中課長】

本当に行政だけでなく、まさにその地域、お一人お一人の取組がとても大切だと思っている。実際、移住一つとっても特定の政策をやれば移住は増えるのか、どうなのか、ちょっと悩ましいところもあるので結局、総合的な取組が必要になるし、当然移住してこられた方を迎え入れる地域の度量とか、接し方一つとっても重要なポイントになってくると思う。そうするとやはり役所だけじゃどうにもやりきれないところがあるので、「暖かくない」というようなお話がもしあるとすれば、やはりそこは地域も含めて一緒

になって、みんなで移住者を迎えるにはどうすればいいんだろうかと自分ごととして考えていく必要があるのかなと今お聞きして改めて感じた。我々も肝に銘じて仕事に取り組んでいかないといけないなと感じた次第である。

細かな取組につきましては、先ほど説明しているとおおり、実際必要なことを一緒に協議しながら作るべきものであるので、この計画をベースにしてその点はしっかり取り組んでいきたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

【竹内（靖）会長】

特になければ、協議事項（２）上越市過疎地域持続的発展計画（案）については、これで閉じることとする。

事務局他に何かあるか。

【内田班長】

- ・次回地域協議会の日程について

【竹内（靖）会長】

委員の皆さんから、何かあるか。

他に発言がないため、これをもって、本日の会議を終了する。

次回の会議は、9月8日（水）午後6時30分から、「中郷コミュニティプラザ」で行うこととする。また、8月24日（火）午後6時00分から「中郷コミュニティプラザ」で学校関係者との意見交換会を行うので出席をお願いしたい。

（終了 午後7時45分）

9 問合せ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411（内線 165）

E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。